

## 令和3年度第7回 感染症発生動向調査部会

令和3年10月20日

月番：澤田 明（感染症全般）、石山 俊次（STI）

### 1 前月の感染症発生動向について（2021年第35週～39週・9月）

#### <全数把握対象疾患>

（感染症全般）

- 一類感染症の報告はなかった。
- 結核は32例あり、毎週コンスタントに報告された（やや前年より少ない；前年比：85.0%）
- 腸管出血性大腸菌感染症は、1例(026)報告された（前年比：166.7%，前前年比：31.6%）
- レジオネラ症は、3例報告された（前年比：144.8%，前前年比：89.4%）
- 五類感染症
  - ✓ 侵襲性肺炎球菌感染症は3例報告された（前年比：112.5%，前前年比：58.7%）
- 新型コロナウイルス感染症は、3341例報告された。

（STI）

- 後天性免疫不全症候群：男性AIDS2例の報告があった。本年累計は10例で前年同期累計（13例）、前々年同期累計（9例）と比べて明らかな増減はみとめられなかった。
- 梅毒：男性11例、女性2例、計13例の報告があった。本年累計は61例、前年度同期累計は44例、前々年同期累計は60例で、昨年減少していたものが本年は再び増加に転じている。男女比は本年5:1、前年累計2:1、前々年同期累計5:3と、女性の比率は減少が続いている。コロナ禍における行動変容と関係があるのか興味深い。

#### <定点把握対象疾患>

（感染症全般）

- 前月と比較し増加傾向にある疾患
  - ✓ 特にはないようです
- 前月と比較し横ばいにある疾患
  - ✓ 感染性胃腸炎（前月比：102.1%，前年同期比：140.9%）-----ただ長期的には減少傾向
- 前月と比較し減少傾向にある疾患
  - ✓ RSウイルス感染症（前月比：33.5%，前年同期比：22.9%）
  - ✓ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（前月比：41.8%，前年同期比：63.6%）
  - ✓ 咽頭結膜熱（前月比：88.2%，前年同期比：83.8%）
  - ✓ 突発性発しん（前月比：79.6%，前年同期比：82.1%）
  - ✓ ヘルパンギーナ（前月比：80.2%，前年同期比：2880.0%）

（STI）

- 性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマの報告に著変はみとめられなかった。

- 淋菌感染症は本年累計 50 例となり、前年同期累計 32 例、前々年同期累計 49 例と、梅毒と同じ増減の動きを示している。梅毒と同様コロナ禍における行動変容との関連に今後検討が必要である。

## 2 検討すべき課題

〈保健環境研究所から〉

- STD 定点の変更について

## 3 その他（感染症対策推進課から）

- 最近のダニ媒介感染症の国内の発生状況について
- 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」の一部改正について（急性弛緩性麻痺）

---

〈検討結果〉